

分類	膠質反応
項目名	TTT
日本語名	チモール混濁試験、膠質反応
英名	Thymol turbidity test
分析装置名	H-7600
測定方法	日本消化器病学会標準法
参考基準値	
臨床的意義	<p>TTTは、ZTTとともに一般に行われている膠質反応で、肝疾患の診断および経過の追跡に古くから用いられています。膠質反応は血漿タンパク(アルブミンおよびγグロブリン)の量的、質的变化に関連して、血清のコロイド溶液安定化作用の大小を示すものです。蛋白比の変動により変化するため、肝疾患診断的価値はあまり高くありません。TTT異常はIgG、IgMの増加(A型肝炎)、アルブミン減少、脂質、リポ蛋白の増加の場合にその頻度が高く、また胆汁うっ帯では特に糖蛋白の血中増加が本反応の修飾(抑制)を行います。急性肝炎の慢性化や慢性肝疾患の程度を知る指標として用いられています。消化器病学会肝機能研究班の肝機能検査法の選択基準の改訂(1994年8月)によれば、セット化された項目には膠質反応としてZTTは記載されているが、TTTは除かれています。</p>

分類	膠質反応
項目名	ZTT
日本語名	硫酸亜鉛混濁試験、クンケル、膠質反応
英名	Zinc sulfate turbidity test
分析装置名	H-7600
測定方法	日本消化器病学会標準法
参考基準値	
臨床的意義	<p>TTTは、ZTTとともに一般に行われている膠質反応で、肝疾患の診断および経過の追跡に古くから用いられています。膠質反応は血漿タンパク(アルブミンおよびγグロブリン)の量的、質的变化に関連して、血清のコロイド溶液安定化作用の大小を示すものです。クンケル(ZTT)、チモール混濁試験(TTT)などが肝機能検査に有用な方法として使用されています。しかし膠質反応は非特異的で、肝疾患のほか、慢性感染症、膠原病などの多クローン性免疫グロブリン血症で大部分の膠質反応が陽性を示すします。ZTTは免疫グロブリン(IgG)と関連し、慢性肝疾患の経過観察および再燃の程度や急性肝疾患の経過観察に有用です。</p> <p>※換算式 <math>\gamma</math>-グロブリン(g/dl) <math>\approx</math> Kunlel単位 <math>\times 0.053 + 0.5</math></p>